



商学研究科 入試説明会

日程：①2014年10月21日(火) 終了

②2015年1月9日(金)

時間：10:30~11:05 (チャペルアワー)

場所：商学部本館1階 4号教室

*場所・時間は両日同じ

「商学研究科の概要説明、質疑応答に加え、現役の大学院生との懇話を予定しています。商学研究科を受験予定の方だけではなく、「大学院?」「商学研究科?」と思っている方、1年生や他学部生も遠慮なくご参加下さい。

三商学部シンポジウム開催報告

関西学院創立125周年・高等学部商科開設100周年を記念して、関西大学・関西学院大学・同志社大学の三商学部合同シンポジウム『商学部で学ぶことのプライド』が9月28日、西宮上ヶ原キャンパスで開催されました。現役高校生や社会人も含め、約170名の参加があり、商学部生による学生セッションでは、商学部での学習やゼミ活動の魅力について、活発な議論が行なわれました。

高等学部商科開設100周年 記念学術講演会

日時：2014年11月25日(火) 4限(15:10~)

会場：西宮上ヶ原キャンパスB号館101号教室

講師：吉岡 貞親 氏

(Executive Director, Treasury Services,

J.P.Morgan, Europe Limited(UK))

演題：『クロスボーダービジネスにおける

コミュニケーション

～法律・異文化・企業戦略・言語からの考察～』

高等学部商科開設100周年 記念誌発行



『関西学院高等学部商科開設100周年記念誌 世の光たれ!』が2年間に渡る編集作業を経て、今年の7月に刊行されました。写真を多く掲載することにより、125周年を迎えた関西学院の創立から、高等学部商科の開設、そして今日の商学部にいる歴史を、より身近なものとして読んでいただけるように編集されています。学生の皆さんには保証人様の住所宛てに送付しています。未読の方は是非ご一読ください。

私が薦めるこの一冊 『ハーバード・ビジネス・レビューBEST 10論文』

小菅 正伸 教授

ハーバード・ビジネス・レビュー編集部編、ダイヤモンド社、2014年、ISBN: 9784478028681

『ハーバード・ビジネス・レビュー』は世界最高峰のビジネス誌です。その100年近い歴史の中で今なお注目される珠玉の論文を10編選び出し、それらを1冊の本として編集したものが本書です。選定された論

文の筆者は、ドラッカー、ミンツバーク、コッター、レビット、ポーター、クリステンセン、キャプラン等、商学部の皆さんにとっては馴染みのある名前ばかりです。ぜひ本書を手にとって最高峰の「知」に接してみして下さい。



デパ地下商品の共同開発 ～石淵ゼミ～



大丸梅田店と石淵ゼミの4年生は「働く女性を笑顔にする」をテーマに、デパ地下で販売する商品の共同開発を行っています。マーケティングリサーチと消費者行動研究を活かして開発した16商品（惣菜、スイーツ、パン）が、2014年10月15日から10月28日まで、大丸梅田店地下1階・地下2階で販売されています。

本企画は、大阪ステーションシティ3周年を記念した大阪ステーションシティフーズフェスタの一環で、大丸梅田店と関西学院大学、JR大阪三越伊勢丹と同志社大学、エキマルシェ大阪と関西大学が共同で商品開発を行っています。詳しくは、下記URLをご覧ください。

http://www.daimaru.co.jp/umedamise/f_festa/



ワークショップ風景(左)・4年生全体写真(右)

教員紹介

深山 明 教授



経営学には2つの大きな問題があります。それは、「価値の流れの問題」と「人と人の関係の問題」です。換言すると、「原価の問題」と「組織の問題」ということになります。したがって、経営学は原価理論と組織理論から成り立っています。企業の最上位の目標が「利益の最大化」であることを考えると、原価の問題がより本質的であることは明かです。組織というものは何かの目的のための手段に過ぎません。組織の問題を考える際にはこのことを忘れてはならないでしょう。組織はその目的によりさまざまに姿を変えます。企業と学校と教会は違います。企業の諸問題について考える際には、それが利益追求の組織に関する問題であることに留意しなければなりません。

2014年 大学祭



2014年度大学祭が以下の日程で開催されます。

★西宮上ヶ原キャンパス★

期間：10月30日(木) 午後 準備のため授業休講

10月31日(金)～11月3日(月・祝) 大学祭

11月4日(火) 午前 後片付けのため授業休講

スローガン：誇り

教員新刊案内

阿部卓也准教授

『アランフェスの麗しき日ター

夏のダイアローグ』

論創社、2014年7月発行

1,400円+税



山本俊正教授監修

『東北アジア平和共同体構築のための

倫理的課題と実践方法

「I PCR国際セミナー2012」からの提言』

佼成出版社、2014年7月発行

900円+税



阿部 卓也 准教授



政府筋やマスメディアは英語の「必要性」を説くことに汲々としているわけだが、「日本人の9割は英語を必要としない」という言説

の方が正しい。英語に限らず外国語を学ぶことは、「必要」なのではない。それは様々なことができる、分かる、可能性を開くだけなのだ。ただしそこで開かれる可能性は途方もなく大きい。その可能性の開拓は、大学生であるからこそできるという面がある。僕のドイツ語の授業は、別にドイツ語でなくても構わない、何か外国語(英語も含んでいるよ)が「必要」となったときに、それを学ぶ力を身に付けてもらいたい、そして言葉が分かることによって開ける世界を垣間見てほしいと思っている。しかしそのためにはドイツ語ならドイツ語に徹底的に浸ってもらう必要があるわけだ。

